

アジアの町並み保存探る マレーシアで国際シンポ

奈良市の旧市街地「奈良町」などで町並み保存の活動を続ける奈良まちづくりセンター（室雅博理事長）が12、14日、マレーシアのペナン島でアジアの歴史的町並み保存の未来像を探る国際シンポジウムを開く。

日中韓や東南アジアなどで活動する10カ国・地域のNGO（非政府組織）のメンバーが集まり、アジアの歴史都市の持続的な発展を目指す提言を行う予定だ。センターは、県内の町並み保存のほか、1991年

からペナン島やタイ・チェンマイ、インドネシア・アチェなどへも活動範囲を広げ、同じ志を持つNGOなどへの支援や交流を続けてきた。

近年、経済成長が著しいアジア各地では都市中心部で大規模な再開発が進み、歴史ある貴重な町並みが取り壊されるケースが多く報告されている。歴史性や地

域性が乏しい画一的な町づくりが進むとの危機感が強まっている。

国際シンポは、英国統治時代の町並みが世界遺産に登録されたペナン島のジョージタウンに、ブータンやミャンマー、カンボジア、インドネシア、中国、韓国、台湾など計10カ国・地域から計19団体を集めて開催。「アジアの町並み保存

ネットワークとその未来」と題し、歴史遺産である町並みと住民のコミュニティをいかに継承するのかなどを議論する。「アジアの歴史都市まちづくり宣言」（仮称）も採択する予定。センターの米村博昭理事は「今回、町並み保存に取り組み始めたばかりのグループも参加する。経験を相互に伝え合って草の根の交

流を深め、勇気づけたい」と話している。（塚本和人）